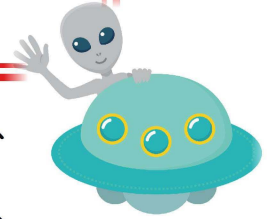




ぜんぜん わからない



人類・生物全般・自然環境・地球・そして太陽系を含む「宇宙」について、私たちはどのくらいわかっているのでしょうか？

実は、宇宙を形成する物質やエネルギーについて人類が解明しているのは、全体のわずか5%だといわれています。残りのうち、27%は「ダークマター（暗黒物質）」と呼ばれ、68%は「ダークエネルギー」と呼ばれています。要は、「何かが存在する」ことは予測されているものの「それが何か」は、**ぜんぜん わからない**のです。

『僕たちは、宇宙のこと ぜんぜんわからない』Jorge Cham・Daniel Whiteson 著より

宇宙の基本的な「なぜ」を理解しようとしたら、まずは、宇宙がいちばん基本的なレベルでどんな姿なのかをはっきりさせないといけない。宇宙をどんどん細かくばらばらにしていって、それ以上細かくできないところまで続けていくのだ。

現実世界のいちばん小さい基本部品は何だろうか？



話を、阿弥陀如来の「心の大きさ」に移します。

親鸞聖人は言われます。「阿弥陀如来は、一切の衆生を救おうという願いを起こしてくださったけれど、**その心と功德は広大すぎて、私たち衆生には ぜんぜんわからない**」と。

そこで聖人は、**いちばん小さい基本部品；自分自身を含む衆生の「身近で小さな心」について深く見つめ**、それをもって如来の心がいかに大きく、清らかであるかを証明しようとされました。聖人の主著『教行信証』信巻には、次のような重要な記述があります。

すべての衆生(私たち)は、はかり知れない昔から今日この時にいたるまで、煩惱に汚れて清らかな心がなく、いつわりへつらうばかりでまことの心がない。

そこで阿弥陀如来は、苦しみ悩むすべての衆生を哀れんで、はかり知ることができない長い時間をかけて菩薩の行を修められた。その間、ほんの一瞬でも清らかでなかったことがなく、まことの心でなかったことがない。...

こうして成就された**如来の「まことの心(信心)」**を、煩惱にまみれ悪行を行い、邪まな知恵しか持たない**一切の衆生に施し与えられたのである。**

<以降、経論からの抜粋で裏付け>

「自分の心」を細かく見ていくと、どこまでいっても煩惱に汚れていました。そのような心でいくら「如来を信じよう」としても、自分の意思がくじけた途端に信心はなくなってしまいます。つまり、**如来よりいただいた まことの心(如来回向の信心)」**によってこそ、**私たちは照らされ・導かれている**、と示されたのです。

